

令和4年度 埼玉県体験活動推進協議会

加須げんきプラザ 試行事業の取組報告



熊谷市立三尻小学校 「よりよい人間関係をつくろう」

埼玉県立加須げんきプラザ

1 事前準備

- 5 月 熊谷市立三尻小学校に試行事業の依頼
- 6 月 1 6 日 三尻小学校教職員を対象とした「人間関係づくりプログラム」研修実施
- 8 ～ 1 0 月 指導案作成・内容の検討
- 1 0 月 指導案完成
- 1 0 月 2 8 日 第 2 回体験活動推進協議会で意見交換
- 1 1 月 1 日 三尻小学校との打ち合わせ (**ZOOM**)

1 事前準備

教員研修の様子



1 事前準備

プログラムを実施する際のポイント

- ①指示を与えすぎない
- ②他人の失敗や間違いが許される雰囲気づくり
- ③振り返りを必ず行う

1 事前準備

プログラム実施中に指導者が心掛けること

① 児童をよく観察する

- ・ 積極的に活動したのは誰か
- ・ 指示を出していたのは誰か
- ・ 受け身の姿勢、活動に参加できていないのは誰か

② 見守りに徹する（助言は必要最小限に）

- ・ できるだけ児童に考えさせる
- ・ 活動できなくなっていたら助言する

1 事前準備

これらの注意点を踏まえ、三尻小学校の先生方が、実際に児童たちに「人間関係づくりプログラム」を実施した。

【実施したアクティビティ】

- ・後出しじゃんけん
- ・ネームトス
- ・餃子じゃんけん 等

2 試行事業当日

活動プログラム 「よりよい人間関係をつくろう」
(第4学年 特別活動)

単元の目標

- 「人間関係づくりプログラム」を中心とする様々な体験活動（アクティビティ）を通じて、児童が互いに協力しながら問題解決を図り、「よりよい人間関係」を形成することができる。
- 形成した人間関係を生かし、よりよい学校生活を送ることができる学級・学年集団を形成することができる。

2 試行事業当日

おおまかな流れ

- ①はじめの会 趣旨説明等（20分）
- ②グループ編成およびビーイング（45分）
- ③グループ活動 12名ずつ5つの班に分かれて活動
（105分：35分×3アクティビティ）
- ④全体活動（40分）
- ⑤ビーイングによる振り返り（10分）
- ⑥おわりの会 感想発表等（10分）

2 試行事業当日

当日の様子



ビーイング



バルーントロリー



マシュマロリバー



迷走UFO



パイプライン

3 振り返り

(1) ビーイングの書き込みから

【開始前の目標（めあて）】

- みんなと楽しく安全に仲良くやる。
- 友達との仲をもっと深める。
- 友達が困っていたら助ける。
- 「大丈夫だよ」と声をかける。
- 言葉遣いに気をつける。
- 人が嫌なことを言わない、しない。



3 振り返り（1）ビーイングの書き込みから

【終了後の振り返り】

- 友達に自分から話しかけて仲良くなれた。
- 「ドンマイ！」と優しい声をかけ合えた。
- みんなのことを知ることができた。
- 周りの子のことを考えられた。
- 前よりも仲が深まった。
- みんなのかけ声が合わさった。
- これからも仲よくしよう！



3 振り返り

(2) 児童アンケートから

【全体を振り返って（自分について）】

- 別のクラスの人とも仲良くなれてうれしかった。
- 「+（プラス）」の言葉を使えて良かった。
- あまり話をしない友達とも話ができた。
- 男女関係なく仲良く楽しくできた。
- 目標の 「自分から話しかける」ができた。
- 今日の関係を大切にしたい。

3 振り返り（2）児童アンケートから

【全体を振り返って（友達について）】

- 一緒のグループの〇〇さんが積極的に声をかけていて、すばらしいなと思った。
- 〇〇さんがリーダーシップを発揮していた。
- 〇〇さんが一生懸命みんなをまとめてアドバイスしていた。
- 〇〇さんが私に声をかけてくれてやる気がでた。
- みんなの意外な一面を知れてよかった。

3 振り返り

(3) 教職員アンケートから

【実施したプログラムの満足度について】

- ・ 児童の振り返りで友達と仲良くなるために大切な「気づき」がたくさんあった。
- ・ どれも楽しいプログラムで、子供たちも友達と協力しながら取り組めていた。

3 振り返り（3）教職員アンケートから

【次年度以降の継続した実施について】

- 子供に対して良い学びになるのは確かであるが、授業時数で4時間とるよりも、朝活動等の短い時間で継続して行うと良いと思いました。
- 誰でもいつでも行えるような形式を考えていきたいと思いました。

3 振り返り（3）教職員アンケートから

【各教科における児童の学びにつながったか】

- ・ 体育科の学習で励まし合う言葉かけ等、今回のプログラムを生かして指導をしました。
- ・ 今回のプログラムで身につけるべき資質や能力を明確にする必要があると思いました。

3 振り返り（3）教職員アンケートから

【他の学校でも実施できるようにするには】

- 1 単位時間での実施ができるようにするとやりやすい。
- 意図的にグループを編成するなどグループの組み方を工夫する。

4 事後の活動

試行事業後、「人間関係づくりプログラム」を縦割り活動で実施していただいた。

【実施したプログラム】

- ・ バースデーライン
- ・ ネームトス

4 事後の活動

【1か月後の先生方へのアンケートから】

今回の体験活動によって、児童にどのような「変化」が見られましたか。

- 何かを決める際に、なるべく多くの児童の意見を取り入れようとする姿勢が見られた。決める際には、「これで大丈夫ですか？」と承認を得ようとする姿も見られた。
- 学習の振り返りの記述に、友達の活動の良さに触れて記述する姿が増えてきた。また、教師自身も意識して振り返らせるようになった。

5 成果と課題

【成果】

- 児童たちの振り返りから、今回の活動がよりよい人間関係を築くための能力を養う機会となったことが伺えた。
- 他者を尊重し、自己を理解することにつながり、今後よりよい学校生活を送るうえで基盤となる人間関係づくりの一助となった。

5 成果と課題

【課題】

- ▲教育課程に組み込むためにも、短時間で実施することができるようにする。
- ▲実施するねらいや効果を明確にすると、学校にとって導入しやすくなる。
- ▲いつでもどこでも誰でも手軽に実施することができるよう、学校にプログラムの実施方法を伝達する機会を増やしていく。

今後も「人間関係づくりプログラム」を学校に広めることで、豊かな人間関係づくりのための「気づき」や「きっかけ」をより多くの児童生徒に与えられるよう努めてまいります。

